

豊田工業大学

次世代文明センター

Center for Next Generation Civilization



未来価値創造

未来予測が難しければ、自分で未来を作ればいい。

未来は「見通す」ものではなく「作る」ものだ。

「時流に先んずる」ということの意味は、これからやってくるものをいち早く先取りするというだけでなく、自らの後ろに続くべき「時」の「流れ」を、己自身で作るということに他ならない。

建学の理念

「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」

次世代文明センターの設立理念

次世代文明センターは、教育・研究の両機能を併せ持つ人文社会系・教養教育系を中心とした文理融合型のセンターです。次世代の文明社会を担うべき人材へと自らを高めるために、互いに学び合い、研鑽し合う活動を推進しながら、創造的かつ先端的な知の形成を目指します。



学長
保立 和夫

多様な切り口から社会の在り様を自ら考えずにはいられない私たちになるために、次世代文明センターが活躍することを期待しています。

「理学は真理と語り、工学は社会と語らう」というフレーズを作りました。二つの学術領域は切れ目なく続いていて、大学での研究活動では何れも独創性を追求します。ただし、モノづくりのための学術である工学には、その成果を社会で活用して欲しいという意味が、本来的に、内在されています。工学の成果は、社会を直接的に変えてゆきます。従って、この分野に携わる私たちには、変わってゆく「将来を想像する力」と、到来する「将来に責任を持つ力」とを、自ら養うことが求められています。このような力は、工学に関する学修と研究だけでは育成し難いように見えます。全ての生きものがより豊かに暮らせるように、多様な切り口から社会の在り様を自ら考えずにはいられない私たちになるために、次世代文明センターが活躍することを期待しています。



次世代文明センター長
村上 陽一郎
東京大学・国際基督教大学
名誉教授

本来の人間性を実現できる未来社会を創るための技術として、今、何を構想するのか。この問いかけに答えることを目指していきます。

本学は技術(technology)をメインに掲げた大学です。そして技術は、常に社会のニーズに応じて展開することで、近代文明の中核をなしてきました。同時に技術の発展は、社会の中に新たなニーズを掘り起こす役割も担っています。だからこそ、技術に関わる人間は、社会の構成要素である人間本来の生の実現を壊すような方向に、技術が進むことへ、常に警戒感を持っていなければなりません。過去の文明史を振り返れば、残念ながら、そうした悪例が多々見つかります。そのような過去に学びながら、本来の人間性を実現できる未来社会を創るための技術として、今、何を構想するのか。この問いかけに答えるのは、易しいことではありませんが、私たちはそれを目指します。



次世代文明センター
運営協議会 議長
江口 建(人文科学分野)

次世代に本当に必要とされる人間とは何なのかを考えながら、人間教育に貢献していきます。

高度経済成長期に掲げられた「大きな物語」が終焉を迎え、日本が道標を見失ってから久しいと言われます。価値観が多様化し、人々の欲望のベクトルがさまざまな方向を指している現代において、教育、医療、福祉、経済、経営、モノづくりなど、至る場面で既存の規範が通用しなくなっていると感じます。そのような不透明で不安定な時代にあつて、次世代に本当に必要とされる人間とは何なのかを考えながら、人間教育に貢献していきます。固定化された知のフレームワークを解体し、現代の閉塞状況を突破できるような人間を、本学から輩出できればよいと願っています。世界の動向を観察すれば、今後、ますます格差社会とデジタル監視社会が到来することが予想されます。文明社会の行く末を見極めながら、公正で成熟した判断を下せる「教養ある」市民社会の実現可能性を模索します。

現代の文明社会とは？

現代は、未来予測が困難な時代と言われます。インターネットの急速な普及に伴う社会構造の変化、グローバル化に伴う価値観や人生観の多様化、社会のさまざまな場面での急速なIT化・デジタル化、人工知能の飛躍的な進化に応じた職業形態の変化など、激しい変化に直面しています。変化が激しく不透明な時代においては、「何をすれば、どんな成果が出るのか」の見通しが容易ではなく、一義的な正解が出せません。

こうした現代社会を支えているのは、高度に発達した情報通信技術です。情報通信技術に基づいて成り立つデジタル化社会は、一方では効率的で、たいへん便利ですが、他方で、私たちの生き方や暮らし方に大きな影響を及ぼします。生活空間が仮想化される度合いが上がれば、人々の関わり方がバーチャル化し、生身の関係性が希薄化します。また、インターネットを通じて手軽に情報を入手できる社会では、知識を手に入れること自体の価値が下がります。常時携帯しているスマートフォンのおかげで、いつでもどこでも検索できるため、知識を「覚える」必要もなくなります。もはや「記憶」、「計算」、「分類・整理」という行為に関しては、人間はコンピューターに勝てません。このような傾向が、実社会での〈働き方〉や大学での〈学び方〉にも影響を及ぼしていると考えられます。

「次世代文明センター」の使命とは何ですか？

上述の社会では、従来とは異なる能力・資質が重宝されます。本センターは、次世代社会の中核を担う人間に必要な能力・資質とは何なのかを分析しながら、それにふさわしい教育・啓発活動を提供していきます。〈これからの時代に必要となる本物の教養〉、〈真に役立つ教養〉とは何なのかを考えながら、学生および教職員に、自己を向上させるための機会を提供していきます。その活動の一環として、講演会やシンポジウム、セミナーを開催します。また、学生への教育活動として、「リベラル・アーツ」を軸とした教養教育を推進します。匿名性の度合いが高くなるデジタル化社会では、コミュニケーション能力や、相手の意図を正確に読解する能力が一層大切になってきます。そのため、言語教育にも力を入れます。研究活動では、文明社会、市民社会に関する哲学的・思想的研究を中心にを行います。教育・研究活動ともに、「哲学・思想」、「言語・表現」、「情報・人工知能」の3部門を柱として活動していきます。

次世代文明センターの柱となる3つの部門

哲学・思想

言語・表現

情報・人工知能



- 文明論的研究
- 教養教育全般



- 言語研究
- 言語教育



- ポスト・コロナ社会、デジタル時代の社会研究

「次世代文明センター」では、 どんな活動をしていくのですか？

教育・研究・社会啓発の3つの側面からアプローチしていきます。

「教養教育」、「リベラル・アーツ教育」を中心とした 人間力の育成、および教養系カリキュラムの充実と整備

分野を横断する幅広い視野から柔軟に物事を考え、かつ自分の考えや価値観を持って自律的に意思決定・行動できる人間の育成を目指します。また、価値観の変動が激しく、技術の更新が早い時代だからこそ、目先の利益や効率重視の風潮にとらわれず、生き方の根底にある普遍的な価値や問いを洞察できる人間の育成を目指します。具体的には、本学の他組織や他部署と連携して、教育上の諸課題を解決しながら、歴史や世界、社会に対する学生の関心を高め、学生の教養を涵養するイベントの立案、キャリア教育の促進と学生の自己実現の支援、教養系カリキュラムの充実と整備などに貢献すべく活動を行っていきます。

本センターでは、「教養教育」を以下の3つの観点から推進・整備していきます。

- ・ 人間性の陶冶、人格形成としての教養
- ・ 科目としてのリベラル・アーツ
(人文・社会・自然科学のバランスが取れた能力の育成)
- ・ 初年次教育(学びの基本的スキル、レポート・手紙・メールの書き方、資料検索方法、図書館の活用法、情報倫理、時間管理、キャリア教育など)

言語運用能力(対話力、コミュニケーション能力、 文章作成能力)の育成

コミュニケーションのオンライン化が進み、SNSを主要な交流手段とする現代の大学生は、「つぶやき」や「書き込み」に慣れていて一方で、「対話」というものをあまり経験していません。本センターでは、討論とは違った素質が要求される「対話」の効能に着目し、対話イベントを通じて、他者とのコミュニケーション能力の向上と、異なる考えに対する理解の促進を図ります。また、学生の「書く力」の向上を目指す取り組みとして、ライティング指導・論文添削などを行います。

考える力／論理的思考力の涵養

大学で学ぶにあたっては、主体的に問いを立て、その問いについて筋道を立てて考える力が必要となります。また、公式に当てはめて答えを導くだけでなく、自ら創意工夫しながら答えに辿り着く経験が大切です。こうした思考力や経験を培うための活動として、本センターは、他組織や他部署と協力しながら、「考える力」の向上に資する取り組みを考案・実行します。また、修士高度教養科目と連動して、学生の論理的思考力の涵養に貢献します。

教育

研究

社会啓発

現代文明社会の構造分析や、市民社会やデジタル社会に関する 思想的・言語的研究

次世代の文明社会を担うべき人材の育成を目指すためには、次世代社会がどのようなものになるのか、人類はどのような方向に進むべきなのか、といったことを理論的に分析・解明する必要があります。そのため、本センターでは、文明・社会・人間・言語・技術・情報といった観点から、現代文明社会の構造分析や、市民社会やデジタル社会に関する思想的・言語的研究を進めていきます。同時に、次世代社会を担う人材の育成にとって有効な教育手法や教育システムの研究も進めます。

文明、市民社会、デジタル社会のあり方に関する哲学的・思想的 研究

教養教育の手法開発と分析、
および教養教育に関する教育システム構築の研究

対話理論、人工知能言語、手話を中心とした言語研究、
および言語教育の手法研究・教材開発

本学の学生・教職員に向けた啓発活動、および社会への貢献・発信 活動として、講演会やシンポジウム、勉強会、対話イベントなどを開催

本センターでは、「啓発」という活動を、以下の3つの観点から考えています。

学内教職員および学生同士の相互研鑽

本学の教員・職員・学生の意識向上と相互研鑽のための取り組みとして、勉強会やセミナー、教育イベントなどを開催。

学内と学外の相互啓発

「知の交流」を目的とした、本学の教職員・学生と、他大学の研究者や企業人、一般参加者を交えたシンポジウムや意見交換会などを開催。

学外へ向けた社会還元と市民教育

本学の教育・研究成果の一部を社会へ還元し、成熟した市民社会を共に作ることに貢献すべく、公開講座や出張講義、講演会などを開催。

ACCESS



●アクセス方法

公共交通機関でお越しの場合

▶名古屋駅方面から

名古屋駅 → 地下鉄約30分 → 相生山駅 → 徒歩約10分

地下鉄桜通線「相生山駅」下車、1番出口から徒歩約10分

▶豊田市・赤池方面から

原駅 → バス約10分 → 高坂小学校停 → 徒歩約10分

地下鉄鶴舞線「原駅」下車、2番出口から市バス(幹原1号系統)相生山住宅・島田一ツ山行き「高坂小学校」下車、徒歩約10分

お車で越しの場合

名古屋第二環状自動車道 → 鳴海IC → 東海道を相生山方面へ「ほら貝東」を右折

名古屋第二環状自動車道「鳴海IC」を降りて東海道を相生山方面に進み、「ほら貝東」を右折

豊田工業大学



学校法人 トヨタ学園

豊田工業大学

TOYOTA TECHNOLOGICAL INSTITUTE

<https://www.toyota-ti.ac.jp/>

〒468-8511 名古屋市天白区久方二丁目12番地1
TEL.052-802-1111 (代表)

